

今月の断酒表彰

☆H・Sさん 吹田支部 断酒三十五年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。



平成 29 年 8 月 1 日発行 No.174

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>

と女房は静かに答えた。私はこの光景をいつまでも忘れず生きていきたい。

断酒に思う (80)

ふたむかし
20年前は二昔か?

南千里支部 D・S

平成 10 年に断酒を始めて、20 年目に入った。こんな事を誰が想像しただろうか。「酒を飲めない状況」→「酒を飲まない状況」→「酒を飲む必要がない状況」を目指して現在も奮闘中だ。

若くして大病しても一向に酒が止まらぬ私に、多くの同僚や先輩は「D君大丈夫か?」と心配して声をかけてくれたり、「お前の酒は焼かな治らんのか」と叱責もしてくれた。

自分でも「俺の酒はおかしい」と、うすうす気付きながらも、どうしようもなく、毎日、毎時、「一刻も早く酒におぼれたい」そんな衝動に駆られ自動販売機の前に立つ自分があった。

思えば長い年月をそうして過ごし、多くの人々に迷惑をかけ、女房や子供たちには地獄を見せた。「なんとかせねば」という思いはいつも空回りに終わった。

酒で仕事を休むことが多くなり、何度か女房が私の職場に呼び出され私の上司から叱責された。転機は万策尽きた女房の「離婚届」にあった。その日は24 回目の結婚記念日で、女房に問いただすと「分かっている」と強く答えた。今更の「酒は止める」の言葉だけでは通用せず、しぶしぶ「阿武山クリニック」の受診となり「間違いなくアルコール依存症」と診断された。

断酒会への参加の動機は「離婚回避」のための不謹慎なものであったが、断酒されている皆さんの姿は、いきいきして魅力的に映ると同時に「自分はただの酒好き、迷惑をかけた酒飲みではない」とのこれまでの考えを一変させた。

「一杯の酒をめぐっての女房との怒鳴りあい」「口汚くののしった女房の仕事や子供たちへの批判」耳を抑え、目をそむけたいほどの自分がとった行動。どれもこれもが消し去りたい過去の出来事に思える。初診の阿武山クリニックで西川先生が女房にこう尋ねた「奥様はご主人がお酒を飲んで一番嫌なことは何ですか」・・・「社会的役割をはたせてないことです。」

【今月の「指針と規範」】

断酒会規範二

断酒会には酒をやめたい人なら誰でも入会できる

断酒会入会の条件は、酒をやめたいという願望を持っているだけで充分である。

どんな政治思想や信仰を持っていても、断酒会入会の障害にはならない。しかし、断酒会は酒害者が酒をやめる会であるので、断酒会の中で選挙活動や、布教活動はできない。

社会的地位や名声のある人、経済的に恵まれた人と、どん底の生活をしている人との間には何の差別もない。

断酒会のモットーは自由平等である。どんな高い地位にいる人でも、ひとりの酒害者であることには変わりはない。そうした認識がなく優越感を持っている人は、すぐ改めてほしい。優越感は、自分の断酒の足を引っばるだけである。

どん底の貧しい生活をしていても恥じることはない。酒害者が酒を断つ努力の過程では、その真摯な姿勢が評価されるだけである。自分を卑下することは断酒の壁になるので捨ててほしい。

心身の障害があっても、酒害者でありさえすれば歓迎される。二重、三重の苦痛を越えて努力する姿には、われわれを感動させるものがあるからである。

過去にどんな誤ちを犯していても、入会の条件に触れるものではなく、また問われもしない。逆に、泥沼から這い上がろうとする勇氣にわれわれは敬意を表す。酒害者なら誰でも入会できるのが断酒会である。

また断酒会は、こうした無条件に近い条件で入会を認めるので、あらゆる環境、あらゆるタイプの人間が集まった。そして、まじめに生きようとする人間と人間の間には、何の差も元々ないことがわかった。自由平等は原則に止どまらず、現実であることを実証した。
(指針と規範 P52~P53)

〈竹細工作品〉 (裏面参照)



かに 蟹
に 狸
たこ 蛸
い 烏賊

みんなの広場

一昨年定年退職となって、これからの集大成として、ボケ防止も含めて竹細工に昨年末から挑戦しています。

飽きやすい性格なのでいつまで続くか疑問ですが、断酒会のように継続できればと思っています。

これまで作ってきたものの一部を紹介させていただきます。

吹田支部 T・T



コースター



平ざる



柄杓、毬、犬、花入れ



四ツ目かご



四海波 12 本



四海波花入れ



六ツ目かご



背負いかご



手提げかご



床几小



床几中



床几大

◎〈みんなの広場〉では会員家族のみなさんからの投稿を掲載していきます。

近況報告、趣味の披露、読書感想、映画・ビデオ鑑賞の印象、会へのご意見等々、発表形式は、散文、短歌、俳句、川柳、漫画、イラストなんでも結構です。奮って応募して下さい。

広報部

